

プレスリリース

2020年10月26日  
国境なき医師団 (MSF)

## 地中海の捜索・救助活動：行政による妨害措置から 1 カ月 「シーウォッチ 4 号」は差し止め処分解除要請へ

地中海を渡る難民や移民の捜索・救救助船「シーウォッチ 4 号」がイタリア・シチリア島のパレルモで出港差し止めを命じられてから、1 カ月余りが経過した。国境なき医師団 (MSF) は行政によるこの妨害措置によって地中海中央部での活動をいまだ再開できていない。その間にも同海域では悲惨な状況が続いており、10 月の第 4 週だけでも子ども 2 人と妊婦を含む 20 人近くが命を落とし、さらに別の遭難では 5 人が死亡または行方不明とされている。同船の所有者である独 NGO「シーウォッチ」は、長引く差し止めにより異議を唱えるため、イタリアの行政裁判所に提訴した。

MSF はシーウォッチと共同で本年 8 月以降、同船で救助者の治療や人道援助を行ってきた。現在は、差し止めが解除され次第すぐに人命救助活動を再開できるよう、MSF はチームを船内に待機させている。

### 些細な不備で拘留処分

MSF の活動責任者を務めるベアトリス・ラウは話す。「9 月 19 日以来、シーウォッチ 4 号は出航も援助活動もできず、身動きが取れない状態です。この船が押収されて以来、少なくとも 80 人が地中海中央部で亡くなり、実際の数はその上回ると予測されています。また数百人が強制的にリビアに連れ戻され、拷問や虐待を受けている可能性があるのです」

「もちろん MSF は海事法に不可欠な港湾の安全管理については重要性を認識し尊重します。しかしイタリア当局の決定は、政治的な動機で救助船の活動を妨害するために、海事法と安全規制を曲解しているのではないかと危惧しています」

イタリア港湾当局は 11 時間かけて船内検査をした後、数個のライトが点灯しないなどの些細な不備を列挙し、シーウォッチ 4 号に拘留処分を下した。

### 「イタリア当局は海事法を救助活動を阻止する道具にしている」

イタリア当局が違反例の一つとして指摘したのは、船上で提供された救命器具の数が、乗船者数に足りていなかったということだ。しかしシーウォッチ 4 号に 354 人が乗船していたのは、救助した人びとだけでなく、他の NGO 船による救助者を受け入れたためだ。海上遭難者を救助することは船長の義務であり、イタリア当局による解釈は、海上における捜索および救助に関する国際条約の規定を無視する行為だと言

える。

この解釈がさらに非難されるべきなのは、乗船者数の増加はマルタ当局の指示によるものだったからだ。マルタの捜索救助海域内にいた救助船からの支援要請を受け、同国はシーウォッチ 4 号にさらに多くの人を乗せるよう命じた。この時には、イタリアの沿岸警備船も現場に駆けつけて 49 人を避難させ、シーウォッチ 4 号は残りの 152 人を乗船させた。

シーウォッチ 4 号の MSF プロジェクト・コーディネーターのバーバラ・デックは、「当局に示された不備の中には、拘留を正当化するには足りないものもありましたが、私たちは協調の精神で是正に取り組みました。しかし、例えばこの船の旗国であるドイツは、イタリア当局が要求する証明書を発行していません。不備を指摘されても修正不可能なものがあるのです。こうした理由から、イタリア当局は海事法を救助活動を阻止する道具にしているのではないかと懸念するのです」と訴える。

### **繰り返される NGO 船への妨害措置**

シーウォッチ 4 号の出港差し止めは、国際法および国内法を逆手に取り、NGO による人命救助活動を妨害するという、これまで繰り返されてきた措置と同じものだ。イタリアの港で差し止めされた NGO の捜索救助船はこれで 5 隻目。10 月 10 日には、NGO 船の「アラン・クルディ号」がシチリア島で 2 度目となる半年間の拘留を受けた。10 月 22 日には、バンクシーが資金を提供した救助船「ルイズ・ミシェル号」も、登録に異議を申し立てられ、出港できないと発表した。

欧州連合（EU）各国は、世界で最も危険な海域における捜索・救助体制を取り払ってしまった。新たな移民協定でより人道的なアプローチを約束しつつ、こうした措置を講じることは、おおいに矛盾している。移民保護を推進するつもりがないのであれば、EU 加盟国が最低限果たすべきことは、NGO の捜索救助船にその責務を委ねることではないだろうか。

### **地中海で増加する死亡と行方不明者**

EU 加盟国が人命救助という法的および道徳的な義務を何度も軽視し、援助団体に不当かつ杓子定規な行政措置を課してきたことにより、地中海中央部では最近死者が続出している。シーウォッチ 4 号が差し止めされて以来、リビアとイタリア沖の難破船で少なくとも 80 人が死亡。これとはまた別に、12 人を乗せた船が 10 日間にわたって地中海中央部を漂流し、5 人が行方不明か死亡したとみられている。だが当局が救出に乗り出したのは、遭難情報の受信から 4 日後だった。

また、リビアは難民・移民らにとって安全な場所ではないと認識しているにもかかわらず、EU はリビア沿岸警備隊に資金を提供し続けている。10 月 8 日、リビア沿岸警備隊に所属する 2 隻の船が、イタリアと EU が費用を負担して大幅な修理を受けた後、リビアに帰還した。これらの船は、海上で人びとを捕らえ、

逃げ出した場所へと連れ戻すためのものだ。

2020年に入ってから現在までに、少なくとも506人が地中海中央部で命を落とし、9000人近くがリビアに強制送還された。

#### **シーウォッチ4号について**

2020年2月、独 NGO 団体「シーウォッチ」と地中海における人命救助の支持者団体「ユナイテッドフォーレスキュー（United4Rescue）」は、海洋調査船だったを共同で購入し、捜索・救助用に改装。「United4Rescue」の支援者には MSF ドイツも名を連ねており、MSF はシーウォッチ4号で医療・人道援助活動を行っている。


以上

#### **本件に関するお問い合わせ先：**

特定非営利活動法人 国境なき医師団日本 広報担当：舘 俊平

TEL：03-5286-6141 携帯：080-2344-0684 FAX：03-5286-6124

E-mail: [press@tokyo.msf.org](mailto:press@tokyo.msf.org) <http://www.msf.or.jp>

 メディア向けツイッターアカウント：@MSFJ\_Press